2010－3

Sakkyo Club

札響くらぶ

No. 50

札響くらぶ（公財）札幌交響楽団内
札幌市中央区中島公園1番地15号（札幌コンサートホール内）
HPアドレス　http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html
Eメール　sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

会報「札響くらぶ」が発行50号を迎えました

札響くらぶ12年の意味は？

札響くらぶ副会長　西川　吉武

私が札響くらぶに入会したのは、平成８年８月設立総会のあと12月21日に開催された楽員さんとの交流会の場でした。札幌駅北口のNSSビル16階で何と札響の楽員さんの演奏を聴き、目の前でビールを飲むという、かつて無い至福のときを過したのが最初です。

札響くらぶ設立に関して、当時の札響は札幌市民会館1500席をうめることが出来ない状態でした。音楽専用ホールKitaraの誕生もあって、札響を聴きにきてくれるファンをどうやって増やすか、ここが大きな課題でした。このことを原点として札響くらぶが出発したということを、もう一度思い直して置く事と思っております。それから12年札響くらぶを何とか続けてきたことは、私にとっても良く続けてきたなあと思います。その間にいくつかの出来事があります。ひとつは札響くらぶコンサート開催へチャレンジしたということ。もうひとつは、札響へ楽譜支援を始めたこと、さらには、おらが町のオーケストラ好きが集まって日本プロオーケストラファンクラブ（JOFC）を結成できたことです。

札響くらぶコンサートは、ご存知のように「キタラファーストコンサート」に展開でき、札幌の小学６年生全員が札響をキタラで聴くことができるようになりました。しかも尾高さん、高関さんと言う日本のトップ指揮者が振っています。何故って？小学６年生は感性が最も育つ時期、本当にいいものをしっかり聴かせることによって音楽への関心とふるさとへの感性を育む狙いがあります。この施策はいまや全国の自治体から賞賛される状況までになりました。

札響へ楽譜を支援は、「会費を値上し、その分の500円を楽譜支援にします」と呼びかけて始まりました。「定期演奏会には行けないが何かお手伝いしたい」と、毎年100名以上の方々が会費にプラスして寄付をお寄せ下さいました。このおかげで、札響くらぶから毎年50万円以上と言う金額を継続して楽譜支援金としています。

日本プロオーケストラファンクラブ（JOFC）協議会は、平成18年11月18日札幌にて、札響くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ（SPC）、山響ファンクラブ、群響を応援する県民の会、広響フレンズの５団体が集って設立総会を開催し議決し設立されました。さらに名古屋フィルファンクラブ、石川県立音楽堂アンサンブル金沢ファンクラブなど参加クラブも増え、各ファンクラブの“おらがまちのオケを大切に思う心”がさらに拡がりを見せています。

札響くらぶはこの12年を振り返りながら「より多くの札幌市民で支える札幌交響楽団への支援活動」をめざしていきたいと思っています。札響くらぶ会員の拡大は札響定期会員の拡大につながることを証明しています。札響くらぶ設立の原点に立ち返って活動を推

【予告】平成22年度総会の予定

平成22年度の総会を５月15日（土）に予定します。
当日は、札響定期Ｂ日程もありますので、総会出席者の中から希望者にそのチケットのプレゼントを計画しています。詳細は別途お知らせいたします。

進し、札響くらぶコンサートも札響の当面のリスナーとして音楽に関心の深い中学生を招待するなどもっと充実し、沢山の市民参加、企業参加をえて開催を続けていきます。これからも益々期待される札響くらぶを目指して進めていきたいと思っています。

札響くらぶ創設の頃

札響くらぶ会員　川村　喜芳

「札響応援団をつくることになったんで手伝ってくれないか」という電話を札響副理事長をしておられた植村敏さんから頂いたのは、平成７年の初夏の頃だったと思います。札響事務局長の野杁さんから連絡を頂いて指定された場所へ行ったところ北大の山科教授、弁護士の上田文雄さん、前札響事務局長の竹津さん、野杁さん等６人ほどが集っていました。平成７年７月のことでした。

その後たびたび集って打ち合わせをしましたが、会の基本理念を巡って延々と議論が続いてなかなか具体的な事業計画の話に入らず、ようやく運営方針らしきものがまとまったのは翌年の４月。これをもとに５月２日に『かでる２・７』で札響定期会員の有志30人ほどと意見交換をし、なんとか「札響友の会」設立の見通しが立ちました。

また会の設立に向けて会報を発行しようということになり鈴木美保さん、定期会員の小林昭美さん、町村会で会報の編集をしていた和田雅之さんに編集スタッフに入って頂いて町村会の会議室で編集会議を重ね、６月に創刊準備号を発行しました。

そして平成８年８月20日、教育文化会館の大会議室で「札響くらぶ」の設立総会がめでたく開催されました。

あれから14年、会の運営が新しいスタッフに引き継がれ札幌交響楽団を支えながらたくましく成長しているのは心強い限りです。

クラシックファンに宿る尾高氏二代のDNA

札響くらぶ会員　鈴木　重統

マーラーが友人にあてた手紙の中で“Musik muβ immer ein Sehnen enthalten, ein Sehnen über die Dinge dieser Welt hinaus”（音楽はこの世の中のすべてを超越するような憧れを含有していなければならない。）と記しているごとく、時代が流転し、街角に昔日の面影がなくとも、曲は流れる。

少年時代を過ごした鶴岡市（藤沢周平の出生地）には、庄内平野の中心であることから、大戦後食糧難よりも青少年の精神的飢餓を憂えた教育者が居られて劇団を作って外国との交流をはかったり、生の音楽を聞かせようと日響（N響の前身）を東京から呼んだりした。

尾高尚忠氏が率いる日響が鶴岡市で青少年のために公演したのは1950年であったが、演奏にさきだって楽器の紹介が行われた。これは、現在札響が小学生に行っている小学生のためのファースト・コンサートのようなものであった。その尾高尚忠氏のやさしく丁寧な楽器の解説のあと、紹介されて新世界の第四楽章の一節を高らかに奏でたのは鶴岡市出身の野崎季義氏（のち武蔵野音大教授）であった。この郷土出身のトランペット奏者によって国は敗れても志を高く持とうという気概を持つ少年たちの心は鼓舞されたように思えてならない。

その翌1951年、尾高尚忠氏が夭折されたという訃報に接し、愕然としたが、７年後の1958年７月北大生であった私がアカシアの散った札幌で旧市民会館のこけらおとしのときに聴いたのはロイブナー氏の指揮するＮ響の新世界であった。冒頭にかかげた時代を超越して名曲のロマンは流れるというマーラーの言葉を実感したのもこの時であった。札響は尾高忠明氏に率いられ、永遠に美しい響きを後世に伝えて欲しい。

「札響くらぶ」の益々の発展を祈念しつつ

札響くらぶ会員　渡辺　悦子

かつては、詩の都とうたわれた札幌でしたが、オーケストラのある街も素敵！と、札響が誕生した1961年７月、事務局に就職したのが青春時代の私でした。

札響設立の夢を実現にまでこぎつけた札幌市や経済界、報道関係や文化活動の方々の尽力が実って第１回定期演奏会は札幌市民会館

札響退職の翌日（'97.4.26）

でその年の９月６日、荒谷正雄氏の指揮によりスタートしたのでした。以来、多くの方々に支えられながら「札響」は着実な演奏活動を続けて来年は創立50周年の節目を迎えようとしています。

長い歴史の中で、特に印象に残る出来事は、1982年、新装なった大阪の音楽専用ホール「ザ・シンフォニーホール」の落成記念に札響が招かれ演奏（指揮・尾高忠明、ソリスト中村紘子）した夜のことです。それまで札幌市民会館、厚生年金会館などで音作りには苦労していた札響ですが、これこそ理想の音響効果を備えたホール、と楽員はじめ、居合わせたスタッフは「このホールをそっくり札幌に持ち帰りたい」と胸をはずませたのでした。

そして、その思いは帰札すると早速「札響にふさわしいコンサートホールを建てよう」の大署名活動に発展して建設の足がかりとなったのです。その時から15年を経て1997年、待望のキタラホールが完成したのです。この年の３月には札響事務局もこの建物に入居しました。私はその翌月、定年で退職し、フリーの身となりましたが、その前年に発足した「札響くらぶ」に皆様と札響を応援しようと入会いたしました。

街のシンボルとして活躍できる札響、応援する人々に支えられて札響はこれからも充実した演奏を続けることでしょう。

会報50号発刊へ向けてのことば

札響打楽器奏者　**大垣内　英伸**

会報50号発刊おめでとうございます。「会報50号発刊」と聞き、平成８年当時、ユニオン札響（組合）の運営委員の立場で設立に係わった一人として感慨深く思っています。

「札響くらぶ」発足前夜の設立総会では「札響くらぶ」メンバーからいろんな意見がでました。それらを当時の山科会長がうまくまとめて、上田事務局長がそれをサポートし、テキパキと事務処理を行う姿は頼もしいかぎりでした。交流会へ向けてもすんなりと事が運べた訳ではありませんでした。何せ、札響くらぶも楽員も初めてのことでしたので、手探りの中、交流会を開催しました。いざ幕が開くと、そこは「音楽」好きな集まり。とっても盛り上がりました。盛り上がりすぎて「楽員」の演奏中におしゃべりとは何事だ、と苦情をいただいたのも今では懐かしい思い出です。その他にも、「練習見学会」「札響くらぶコンサート」など、さまざまな催しを通じて札響支援の輪を広げていただいていることに感謝しています。今日までの運営は本当にいろんな方々の支えがあっての事と思います。私たち演奏家は聴いていただける人がいないと成り立ちません。「札響くらぶ」は私たちの演奏を聴いてくれる一番近い人、そんな風に思っています。寄付していただいた、あの譜面紙のように、これからも、なくてはならない存在でいてほしいと思います。これからもよろしくお願いします。

感　　謝

札響トランペット奏者　**前川　和弘**

この度は、札響くらぶ会報50号の発行を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

思い起こせば10年前、札響は今までにない経営上の危機をむかえ、存続への不安に直面していました。楽団員の私達は、オーケストラのあり方を再考し、行動すると言うことの必要性を強く感じさせられ、意識の改革を迫られている時期でした。

楽団員の一人一人が様々な知恵を出し合い、一体となって今日までやってまいりました。しかし出来ることに限りを感じたり、マイナス思考になってしまいがちなとき、常に周りから温かく支援してくださっていることに、どんなに勇気づけられたか分かりません。

演奏会後、札響くらぶのテーブルへ立ち寄りますと、何時もとびっきりの笑顔で迎えて下さり、疲れも吹き飛んでしまいます。年に何度かの会員の皆様との交流会では、楽しい時間を持てますことを、嬉しく思っております。弾む会話の中に、どんなに熱く札響の事を考えていてくださるか、又どんなに音楽を愛していらっしゃるかが、ひしひしと伝わってきます。

このような方々と一体となって札響をさらに盛り上げていける事は、大変幸せな事だと思っております。

今後共、どうぞ応援を宜しくお願い致します。そして最後になりましたが、札響くらぶのこれからの益々の御発展と、会員の皆様の御健康をお祈り申し上げます。

団員さんも参加してクリスマスパーティーが開催されました

クリスマスパーティーに参加して

札響ヴァイオリン奏者　佐藤　郁子

12月12日定期演奏会の終了後、初めて札響くらぶのクリスマス会に参加させていただきました！沢山のお菓子にビンゴ大会、そして会員の方達は皆さん言葉を交わしたことはなくてもしょっちゅうキタラでお見掛けする方ばかり…。まるで親しいお友達のお宅のパーティーに来ているような雰囲気で私の緊張もすぐに溶け、お話の輪の中に入れていただきました。沢山の方と知り合い、最近のコンサートの感想や激励の言葉をいただき、あらためて会員の皆さんが心から札響を応援して下さっているのを感じて嬉しかったです！

しばし和やかな歓談のひと時を過ごしたあと、毎年恒例だというビンゴ大会では、久しぶりのビンゴゲームだったせいもあり、番号が発表される度ハラハラドキドキしました！殆ど全員分のプレゼントが用意されていた事にもびっくりしました。準備するの、すごく大変だったことでしょう。司会をしてくれた男の子が楽しいトークで盛り上げてくれて素晴らしいかったです！次回は私も何かプレゼント持っていきますね。

クリスマス会で仲良くなった会員の皆さんにコンサートなどで再会する楽しみもできました！本当に有難うございました！

クリスマスパーティーに参加して　～親子で紡ぐ札響への想い～

札響くらぶ会員　かっきぃ

12月から小６の息子と中２の娘と親子で札響くらぶの仲間入りをさせていただきました。当日、子どもたちは憧れの団員さんに会えることをとても楽しみにしていました。「折角のチャンスだから、準備から片付けまでお手伝いして２倍楽しもう！」とスタッフの皆さんのご迷惑を承知で伺いましたが、皆さん温かく迎えてくださり、大きなツリーの飾りつけやテーブルセッティング、ビンゴ大会の司会など子どもたちにも本当に良い経験をさせていただきました。ありがとうございます。会の中では、憧れの団員さんと身近にお話ししたり、写真撮影、さらには自分の楽譜にサインをいただいたり親子でとても感動の一日でした。

実は、私は今を遡ること20数年前、中学２年生の頃から一人で札響の定期に通っていました。当時は、前売り学生券を教育文化会館の事務局に買いに行き、演奏会は厚生年金でした。その頃の私にとって定期の会場はまさに大人の「社交場」で、その時だけは背伸びをして大人の雰囲気に浸ったものです。初めの頃は緊張感もあってただ演奏を聴くことに集中して

いましたが、周りを見る余裕ができた時、私の心をとらえたのは演奏後のお客さんの幸せに満ちた表情や感動で鳴りやまない拍手、指揮者や団員さんの誇らしげで満足そうな表情でした。

その後、大学の音楽サークルで演奏活動しながら、私にも音楽を通してたくさんの人々の感動や幸せをつなぐことができないだろうかと真剣に考えるようになりました。と同時に、私を育ててくれた札響にいつか何かの形で恩返しがしたいと思い続けてきました。

今、二人の子どもたちはあの頃の私と同じ年頃で毎月定期に通いながら、札響くらぶにも入りました。団員さん、事務局はじめ志ある札響くらぶの皆さんの背中に彼らなりに何を感じるのか、とても楽しみです。会の中では「事業仕分け」の話題にも触れていましたが、どんな大きな流れの変化にも地元の文化は地元が支えるもの、札響は道民が支えていこうという強い意志があれば必ず前に進んでいくはずです。こんな時代だからこそ、心の豊かさを与えてくれる札響を大切にしたい、その熱い想いを大人だけでなく、たくさんの子どもたちにも感じてほしい。そして考えて行動してほしい。親子での入会はその第一歩です。

これからも色々な活動に楽しく参加させていただきながら、親子で感動への恩返しをしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

X'mas パーティ 写真館

10. 4〜11. 3シーズン 定期演奏会の聴きどころ

尾高音楽監督・高関正指揮者による定期プログラムの解説

１月14日、札響ニューイヤー・パーティが開催される「ロイトン札幌」において、開始前のひと時をお借りし、音楽監督の尾高さん、正指揮者の高関さんに来季に向けての抱負と、定期プログラムの解説をお願いしました。2010年はシューマン生誕200年、マーラー生誕150年、2011年はマーラー没後100年という記念の年であり、それは定期プログラムにも反映されています。またソリスト陣も充実しており、楽しみな演奏会が続きます。

今年度の抱負

尾高　まず、皆さんに改めてご報告です。新聞報道などでご存知かと思いますが、この１月、僕はN響正指揮者とメルボルン響首席客演指揮者に就任しました。でも、「僕が主にしているオーケストラは札響である」ということを両オーケストラに予め伝えてありますし、それを認めてもらっています。ですから、僕と札響の関係はこれまで同様、全く変わることはありませんし、札響を指揮する回数が減ったりもしません。札響は来年50周年をむかえるわけで、海外公演なども予定しているこの50周年を終えて区切りの良いところで辞めるのでは、と勝手な推測もあるようですが、札響を自分からやめる気持ちは全く持っていません。この１月、2015年までの契約をかわすことも決まりました。

さて、来年が札響50周年ということで、今年は大切な１年間です。今年来年は２年間連続のマーラー・記念イヤーにちなみ、僕と高関さんとで日本ではあまりやらない『３番』『７番』の交響曲を取り上げます。『３番』は女声合唱や児童合唱もあり大変な難曲ですが、『７番』はそれ以上に複雑で難しい、精神的にも本当に難しい曲です。シーズンのしめにそれを高関さんがやってくださることになります。

高関　私が初めて札響を指揮したのが1985年の４月、それからちょうど25年たちます。日本で指揮者として活動を始めた最初の年に札響を振っているので、指揮者としても25年間を経たことになります。振り返れば、自分の指揮者としての活動の中でずっと札響と係わりを持ってきたわけで、これからもずっと良い関係を続けていければと思っています。今年、私自身としては、シューマン・イヤー、マーラー・イヤーに、札響定期演奏会で二人の作品を振ります。他のオーケストラでも取り上げることになっています。去年はオペラに４本も取り組んだのですが、今年はキタラ主催の『フィガロの結婚』（３月）だけにしています。来年早々には新国立劇場ではじめて振る予定で（『夕鶴』）、今年はその準備にも慌ただしいというところです。

尾高　補足しますと、新国立劇場も変革に取り組んでおり、東京や他のオーケストラで定期演奏会などに登場する指揮者の人たちが、ピットに立つようになります。高関さんには『夕鶴』をお願いしました。『夕鶴』は僕も以前にやりましたが、譜面に不徹底な部分が残されているのです。それをこの機会に再考察し本来響くべき状態に戻したいと、それには高関さんしかいないと考えています。

各定期演奏会について

尾高　では４月から順にお話ししましょう。４月はエリシュカさん。先日、エリシュカ先生とお会いしてたくさんお話をすることができました。とてもお元気で、「札響は大好きなオーケストラだから、いつまでも来ます」とおっしゃっていただきました。ドヴォルジャーク協会の会長をなされているので、やはりドヴォルジャークをお願いし、４月は交響曲第５番を振っていただきます。僕個人としては、いずれエリシュカ先生にドヴォルジャークの全曲演奏をしていただきたいと希望しています。

５月は、後ほど高関さんに解説をお願いするとして、まず６月です。僕はなぜかチェリストの友達が多く、特にスティーヴン・イッサーリスとは大変親しい間柄です。彼は神がかっているほどのすごいアーティストで、サン＝サーンスのチェロ協奏曲第２番は、以前、ロンドン・フィルで協演しています。めったに演奏されない曲なので、ロンドン・フィルのメンバーもほとんど知らないと言っていましたが、彼はこの曲にほれ込んでいるのです。その時、「またどこかでやろう、札響でやろうよ！」という話になり、今回実現となりました。サン＝サーンスの１番は知っている人も多いので、「１番も一緒に演奏してくれない？」とお願いしたら、良い返事をもらえて今回のプログラムになりました。この２曲を同時にプログラムすることはめったにないことですから、

僕もとても楽しみにしています。１曲目の『夏の牧歌』は僕の好きな曲、そしてメインはデュリュフレの『レクイエム』です。デュリュフレさんは、僕の兄(注1)の作曲の先生です。デュリュフレさんがご自身でこの曲のレコードを作ったときにすぐに我が家に送ってくれ、それを僕は子供の頃に聴いていました。「なんて綺麗な現代曲なのだろう！」と思ったものです。日本での初演は絶対僕がやりたいと決めていて、東京フィルの常任指揮者のときに初演を行いました。そのときの録音をデュリュフレさんに送ったらすぐに、「本当にありがとう。素晴らしい演奏だし、情感がとてもこもっている。それがオリエントで、すべて日本人による演奏で自分の曲が演奏されたのがうれしい。」とお手紙をいただきました。この曲は稀に見る現代の名曲で、永久に残る曲だと僕は思っていますので、是非聴いてください。

９月は、先ほども触れましたとおり、マーラー生誕150年にちなんだ交響曲第３番です。

10月のデリック・イノウエは、僕が指揮を少しだけ教えたことがあります。昨年、ほくでんファミリーコンサートで彼が初めて札響を振ったとき、聴いていただいた人達から「良かった」との声が多く寄せられました。楽員からも「きちんと練習をしてくれる」との声が寄せられ、定期で振ってもらうことに大賛成でした。抜擢と思われるかもしれませんが、僕も太鼓判を押します。ソリストは、札響の顔である大平まゆみさんです。しばらく協奏曲で札響と共演していなかったので、曲は何がいいだろうとご本人と相談をしたところ、ラロを弾きたいということで「スペイン交響曲」に決まりました。それでラロとの組み合せとしてフランクがいいだろうと考え、デリックにお願いしました。

11月は僕の回です。昨年発売された名曲シリーズ「北欧の新伝説」のCDが想像以上に評判が良いようです。それに便乗しているわけではないのですが11月にオール・シベリウスをプログラムしました。札響は日本のオケとしては北に位置していますし、北のオケの良さがあると思うので「シベリウスをもっと演奏していこう」ということになりました。シベリウスはもちろんシンフォニーもいいのだけれど、『四つの伝説曲』という大変な名曲があり、これが意外に演奏されていません。易しい曲ではないのですが、ぜひこれにトライしてみたいと思います。ヴァイオリン協奏曲を弾いてくださいます竹澤恭子さんとは長いお付き合いです。

12月は、指揮のゲルゴフさんもソロのフローレスさんもお二人とも1981年生まれです。ゲルゴフさんはブルガリアの出身で、いまはウィーンで活躍しています。ウィーン・トーンキュンストラー管の指揮者の一人になっているそうです。フローレスさんは今話題のベネズエラ出身、シモン・ボリバル響のスター・トランペッターです。作曲家のタン・ドゥンさんは以前から札響を指揮したいという気持ちもあるようにきいていましたが、そのタン・ドゥン作の「弦楽のための交響曲」を取り上げます。

１月です。指揮のエイドリアン・リーパーは、経験豊かな人です。ブラームスとプロコフィエフとの組み合わせですが、僕は一度もこの組み合わせでやった事はありません。高関さんはある？

高関　そういえば無いですね。ブラームスとショスタコーヴィチならあるけれど、プロコフィエフはないですね。

尾高　おそらく、河村さんの良さを引き出すのはブラームス、リーパーさんの良さを引き出すのがプロコフィエフということだと思います。

２月の公演ですが、このときのプログラムは来シーズンの東京公演（2011年３月）と同じになります。ソロのペレーニさんはご存知の通りすばらしいチェリストですから、ショスタコーヴィチの２番の協奏曲を演奏するということで、いろいろな人が興味を持ってくれると思っています。交響曲の５番を僕は何回も振っていますが、一番思い出深いのが札響との演奏です。大阪のザ・シンフォニーホールが出来たときのこけら落しシリーズに５つのオケが出演しました。自分で言うのも変な話ですが札響の評判が一番よかったのです。ザ・シンフォニーホールは素晴らしいホールですが、空間がちょっとだけ狭いのです。それで、他のオケは音が大きすぎたり、ガンガンと響きすぎたりでしたが、そのときの札響は今よりもよほど音量が小さくて、だからこそホールの響きにもよく合った。「札響は誠実でいい音がした」というのがいまだに大阪の人達の語り草です。その思い出の曲にやっと戻ってきました。

高関　私は５月と翌年の３月の出演です。５月は、庄司紗矢香さんと初共演です。世界的に活躍している素晴らしい方なので楽しみにしています。１曲目は柴田南雄先生の『シンフォニア』です。柴田先生には学校にいたときに音楽理論の授業を受けたことがあります。12音技法で書かれているこの曲は、1960年、ちょうど50年前の作品で当時の日本の作曲家が元気なときの曲ということで取り上げてみました。

尾高　あの頃は、作曲家の中にパッションが強くあったと思います。

高関　来年３月の私のマーラーですが、確かに『７番』は『３番』とともに演奏の機会が少ないですね。初演もあまり成功しなかったようです。大曲にドカンと取り組

んだ『6番・悲劇的』のマーラーと、すごく完成度の高い『8番』のマーラーとの間で、『7番』はすこしすねちゃったようなマーラーですが、なぜか私は学生時代から好きでした。それと、個人的な思い出もあります。実はベルリンに留学したとき、ベルリン・フィルのヴィオラ・エキストラとしてこの曲を弾いたことがあるのです。予定していたエキストラがキャンセルとなった急遽の代役で、楽譜をもらったのが本番4日前という大変な経験でした。その時によく楽譜を読みこみましたし、オーケストラの一員として弾くことでマーラーのスコアがどのように機能するのかを中から体験できました。これまでに3回指揮していますが、マーラー・イヤーということもあり、今年度は札響を含めて3回演奏することになっています。マーラーの他の作品は皆さんがおやりになるでしょうし、多分『7番』をとりあげるのは私だけでしょうね。ほんとにいい曲なので聴いて下さい。

札響合唱団について

尾高　札響合唱団はデビューの『第9』がびっくりするほど良かったものの、『ピーター・グライムズ』をプログラムしたとき、“背伸びの背伸び”になるのではと感じていました。それが、結果としてあれほど歌えたのは合唱団全員の努力です。昨年大成功した『カルミナ・ブラーナ』、そして結成3年目の再オーディションなどを経て、確実にレベルが上がってきましたね。今年は、さらにハードルをあげてデュリュフレの『レクイエム』です。今までハーモニーやリズムに取り組んできましたが、今回は単旋律の綺麗さも出てこないといけません。ピュア・サウンドというかピュア・ヴォイスという感じに取り組むので、場合によっては、声の感じをセーブしたり、少し変えていかなければいけないこともあると思います。正調の響きを目指すという意味で、合唱団が次のステップに上がって行くためのいい曲だと思います。

高関　『カルミナ・ブラーナ』は私が振りました。まず、言葉が大変でしたね。そして、あの曲はナイーブな感じが必要なのですが、そうした表現がいいところまでいっていたと思います。合唱団の皆さんのファイトは大変うれしかったです。CDにもすることができました。今年は『札響の第9』を振りますので、また合唱団とご一緒できるということでとても楽しみにしています。

東京公演について

尾高　東京公演は日本中のすべてのオーケストラがとても大切にしているのですが、僕は東京だけでなく、大阪とか広島、福岡などにも行きたいと思っています。各地で札響を聴きたいという声はありますが、現実には経費やスケジュールの面などの条件もあっていまは、東京が精一杯という状態でしょう。でも、将来的には東京&大阪とか、東京&京都とか少しずつ増やしていきたいと考えています。

東京公演の曲目については、このオーケストラのいいところを聴いてもらおうという気持ちを強く持っていて決めています。昨年、エルガーを特集したのは、一昨年のエルガーの『3番』や、その前からやっていた札響の英国音楽が評判になっていて、希望する声が結構強かったのです。僕としては、そろそろ英国ではないもの、エルガーではないものという思いもありましたが、『エニグマ』を札響とは定期でも演奏していなかったので、「じゃあ、やりましょう」ということで東京でも演奏することにしました。という訳でエルガーが続いてしまったのですけど、これからはもっと幅広いレパートリーになると思います。昔はサントリーホールに行くとみんな緊張してしまい、浮き足立って実力が出ないような事もあったのですが、キタラで鍛えられたおかげで堂々と演奏できるようになってきています。東京公演は11月が続きましたが、また3月に戻すことになります。会場もサントリーホールになり、次年度の東京公演は年があけて来年の3月1日です。

音楽の役割とは

尾高　今はオーケストラの予算も削られたりして厳しい状況にありますので、僕たちは今まで以上にお客さまの中に入っていかなければいけないと思います。楽員は様々なところに出向いて演奏や教育活動を実施していますが、ここまでいいという事はありません。そうした努力をもっと重ねることが、後で活きてくるのだと思います。また、Kitaraファーストコンサート(注2)についても同じで、絶対続けていかなくてはならないし、続けたことで20年たった後がもっともっと良くなると思います。景気が苦しい中でも支えていただいているのですから、僕たちも努力しなくてはいけないと思っています。

（注1）尾高惇忠氏、作曲家。
（注2）札幌の小学6年生全員がキタラに行き、札響を聴く札幌市主催の行事。主として尾高さんと高関さんの指揮で演奏されます。

2010.4〜2011.3　札響定期演奏会プログラム

■第528回定期演奏会
4月16日(金) 19：00、17日(土) 15：00
指揮：ラドミル・エリシュカ（首席客演指揮者）
曲目：ドヴォルジャーク／序曲「謝肉祭」
ヤナーチェク／シンフォニエッタ
ドヴォルジャーク／交響曲第5番

■第529回定期演奏会
5月14日(金) 19：00、15日(土) 15：00
指揮：高　関　　健（正指揮者）
ヴァイオリン：庄　司　紗矢香
曲目：柴　田　南　雄／シンフォニア（1960）
モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第5番「トルコ風」
シューマン／交響曲第3番「ライン」

■第530回定期演奏会
6月25日(金) 19：00、26日(土) 15：00
指揮：尾　高　忠　明（音楽監督）
チェロ：スティーヴン・イッサーリス
メゾ・ソプラノ：加　納　悦　子
バリトン：三　原　　剛
合唱：札響合唱団、札幌放送合唱団
曲目：オネゲル／夏の牧歌
サン＝サーンス／チェロ協奏曲第1番、第2番
デュリュフレ／レクイエム

■第531回定期演奏会
9月17日(金) 19：00、18日(土) 15：00
指揮：尾　高　忠　明（音楽監督）
メゾ・ソプラノ：手　嶋　眞佐子
合唱：札響合唱団、HBC少年少女合唱団
曲目：マーラー／交響曲第3番

■第532回定期演奏会
10月15日(金) 19：00、16日(土) 15：00
指揮：デリック・イノウエ
ヴァイオリン：大　平　まゆみ（札響コンサートマスター）
曲目：ラロ／スペイン交響曲
フランク／交響曲二短調　ほか

■第533回定期演奏会
11月12日(金) 19：00、13日(土) 15：00
指揮：尾　高　忠　明（音楽監督）
ヴァイオリン：竹　澤　恭　子
曲目：シベリウス／アンダンテ・フィスティーヴォ
ヴァイオリン協奏曲
交響詩「4つの伝説曲」

■第534回定期演奏会
12月10日(金) 19：00、11日(土) 15：00
指揮：ロッセン・ゲルゴフ
トランペット：フランシスコ・フローレス
曲目：タン・ドゥン／弦楽のための交響曲
アルチュニアン／トランペット協奏曲
チャイコフスキー：交響曲第4番

■第535回定期演奏会
1月28日(金) 19：00、29日(土) 15：00
指揮：エイドリアン・リーパー
ピアノ：河　村　尚　子
曲目：ブラームス／ピアノ協奏曲第1番
プロコフィエフ／交響曲第5番

■第536回定期演奏会
2月25日(金) 19：00、26日(土) 15：00
指揮：尾　高　忠　明（音楽監督）
チェロ：ミクローシュ・ペレー二
曲目：武　満　　徹／ハウ・スロー・ザ・ウィンドーオーケストラのための
ショスタコーヴィチ／チェロ協奏曲第2番
交響曲第5番

■第537回定期演奏会
3月18日(金) 19：00、19日(土) 15：00
指揮：高　関　　健（正指揮者）
曲目：マーラー／交響曲第7番「夜の歌」

4・5・6月　札響定期のききどころ　〜定期演奏会を満席に〜

いよいよ新シーズンが始まります。4月、5月、6月は札響の顔であるエリシュカさん、高関さん、尾高さんが連続して登場します。トップを切っては、このところ4月の恒例となっているエリシュカさんです。村上春樹の『1Q84』で一躍有名になった『シンフォニエッタ』を取り上げますが、いつも心に何かを残してくれる、まさに名演とはこの人のためにあるような、今回もそんな演奏に期待しましょう。5月は高関さん、庄司さんの競演です。最近、世界中で大活躍の庄司さん。よく歌うストラディヴァリウスの調べは、どんなに素敵な歌を歌ってくれるでしょうか。さらにシューマンイヤーにちなみ数ある名曲の中で「ライン」が演奏されます。6月はスティーブンと尾高さんの競演、なんとサン＝サーンスのチェロ協を2曲も演奏してくれます。これだけでもお得な聴き逃せない演奏会ですが、尾高さんが名曲とのお墨付をつけたデュリュフレの『レクイエム』をメインに取り上げます。めったに聞くことのない曲です。お聞き逃しのないように。

※　曲目については上の一覧を参考にしてください。次号は、9月定期のききどころを取り上げます。皆さんの思いをお寄せ下さい。

（お詫び）誌面の関係で会員の声を載せることが出来ませんでした。推薦の声をお寄せいただいた皆さんにお詫びいたします。

札響物語 49

北電ファミリーコンサート［2］

「北電ファミリーコンサート」は制作＝北海道放送、提供＝北海道電力、演奏＝札幌交響楽団で1973年５月６日に始まった公開録音のための演奏会である。近年まで毎週日曜日の午後10時から30分間HBCラジオで全道に向けて放送されていた。

スタートから数年間は１回の演奏会で30分番組４回分（４週分）をトークを交えて収録していたが、後にトーク部分はスタジオで後日収録されるようになった。民間放送での30分番組はコマーシャルの時間をはずすと実時間は約25分になる。更にアナウンスの時間を差し引くと１回分の長さは演奏とトークを合わせて20～23分程になる。

演奏時間が丁度具合良く収まる曲はそんなに有るものではないが４つの楽章から出来ている長い交響曲は、長めの楽章と短い楽章を組み合わせて１回分になるので１曲で２回分収録することになり効率が良かった。番組中、アナウンサーが「本日は時間の都合で第１楽章と第３楽章の演奏をお届けします」と言うのがそれである。

解説入りでコンサートを実施していた頃、曲の長さが16～19分位の短めの曲の場合は解説で時間を埋めることになり、たまには指揮者やソリスト、楽団員もトークに参加することもある。最近はしゃべり上手も出演者の資質の１つと言われるようになったが番組が始まった頃はトークは苦手と言う演奏者が大勢いて「何かしゃべって」と口説いたものである。

舞台の上では指揮者もオーケストラもトークのたびに待たされることになる。聴衆にとって楽しいトークも演奏者にとって冬場は特に大変だった。待っている間に金管楽器は楽器が冷えてピッチが下がり、リード楽器はリードが乾燥、弦楽器奏者も指が冷えたり、音楽の流れが途絶えたりとコンディションの維持に苦労する。

30分番組４本分を収録するためには最低２時間は必要になる。途中15分の休憩を取り、出演者の出入りを入れたり解説者が興に乗ったりすると午後６時30分に始まる演奏会が９時を過ぎることもままあった。かつて「北電ファミリーコンサート」の会場だった札幌市民会館は客席数1596席の細長い急な傾斜の客席だった。９時を過ぎると暗い客席の通路を足元と足音を気にしながら降りてくる人を目にするのが常だった。札幌の中心部に住んでいる人はともかく周辺部の住人には地下鉄から乗り継ぐバスがなくなるのである。

HBCラジオはモノーラルのAM放送なのに当初から少しでも良い音を届けようとステレオで収録して日曜日に全道へ届けていた。

月曜日の朝、札響事務局へ出ると待っていたように電話が鳴り「昨日の演奏は……」と道内各地からのファンの声を聞かされるのも楽しみだった。

（竹津　宜男）

大平さんを囲み受賞記念パーティ開催

去る１月25日（月）、ダイニング『イル・ネージュ』において札響コンサートマスター・大平まゆみさんの札幌芸術賞受賞記念パーティを行いました。

西川副会長のユーモアあふれる司会でパーティは進められました。「今回の受賞は思いもかけなかった事で、地味に一人で喜びをかみ締めていました。札響くらぶは私が札響に入団して以来、いつもそばにいてくれる存在で、私の大きな力になっています。今日もこんな素敵な会を催していただき、本当に感謝しています。」と、大平さんがご挨拶なされ、「今日は母の誕生日なんですよ。」とお母様のことを語られました。

この日の料理は、シェフが腕によりをかけたもので、ヘルシーな料理をコンセプトに茸や野菜をたくさん使った女性に優しい料理で、一品一品テーブルに並ぶ毎に参加者から感嘆の声が上がりました。

ゲストの大平由美子さん（ピアニスト・よく大平さんと競演をなさっています。）が、「まゆみさんは芸森の帰りなど家によってくれたり、同じ大平なのでとても他人とは思えません。」とお祝いの言葉を述べられ、札幌が好きなのでこれからは札幌を主として活動していきたいとお話されました。その後、参加した全員から一言ずつ大平さんへのお祝いの言葉があり、記念品の贈呈、全員での記念写真など、あっという間の３時間が過ぎてしましました。

運営スタッフ活動報告　12月～２月

◆ニトリ北海道応援基金申請
12月２日(水)
担当：事務局長
札響くらぶコンサート運営費としてニトリ北海道応援基金に支援申請しました。
結果は３月下旬決定し、４月上旬に判明します。

◆文部科学省関連事業仕分けパブリックコメント応募
12月10日(木)
担当：事務局長
文部科学省関連の事業仕分けに反対するパブリックコメントの応募を会員及びJOFC会員にメールでお願いしました。また、関連の記事が15日の道新朝刊に報道されました。
応募の結果については、14ページの記事をご覧ください。

◆クリスマスパーティ開催
12月12日(土) 17：30～19：30
札幌コンサートホール２階大会議室
参加：西村専務理事、大平コンマス、団員さんを含め40名余りが参加しました。

◆会報49号発送作業
12月16日(水) 14：00～17：00
札幌コンサートホール１階第２会議室
出席：佐藤副会長ほか６名
会報のほか、会費金融機関口座自動振替申請書、会費納入依頼書、札響関係チラシを同封しました。

◆札幌市市民活動サポートセンター登録
12月20日(日)
担当：事務局長
11月29日付で登録申請していた札幌市市民活動サポートセンター（通称「エルプラザ」）から登録通知が届きました。札響くらぶ会員は、無料の会議室やコピー機、印刷機が割安で利用できます。利用には登録番号（42024）が必要です。

◆ホームページ用レンタルサーバー取得
12月21日(月)
担当：事務局長
個人が契約しているプロバイダーのサーバーを利用して公開いたHPですが、容量が大幅に不足してきたため、札響くらぶとしてレンタルサーバー（ドメイン：sakkyoclub.net）を取得しました。これを機会にHPの全面リニューアルを計画します。

◆第９回札響くらぶコンサート開催関連会長との打合せ
１月14日(木)
キタラ特別応接室
出席：会長ほか２名
第９回札響くらぶコンサート開催に関して会長との打合せを実施しました。

◆大平まゆみさん　札幌芸術賞受賞お祝いパーティ
１月25日(月)
ダイニング「イル・ネージュ」
大平さんを囲んでスタッフ16名が参加しました。

◆JOFC名古屋総会決まる
２月１日(月)
担当：事務局長
総会開催について検討中だった名フィル・ファンクラブから９月４日（土）開催決定の連絡がありました。

◆札響くらぶコンサート検討会(２回目)
２月10日(水) 18：30～20：00
エルプラザ２Fフリースペース
出席：西川副会長ほか４名
第９回札響くらぶコンサートの開催に関して、開催時期、コンセプト、券売当に関して協議をしました。

◆JOFCHP全面リニューアル
２月15日(月)
担当：事務局長
JOFCのHPを３回目となる全面リニューアルをし、次に移転しました。
URL：http：//www.sakkyoclub.net/jofc/

◆札響くらぶコンサートに関する札響との懇談会
２月18日(木) 19：00～21：00
プラザ鳥よし（JLB２F）
出席：札響くらぶ上田会長ほか５名
札響から西村専務、宮澤事務局長
札響くらぶコンサートの開催に関して会長を交えて札響と懇談し、日程調整をすることにしました。

現在の会員数（２月28日現在）

12月～２月　入会17名、退会10名
現会員総数　477名

札響が尾高音楽監督に謝罪

札幌交響楽団がCD製作のための録音を音楽監督に無断で行い、尾高音楽監督から厳重に抗議を受けたことが新聞紙上に報道されました。記事によると、この１月29日、30日に行われた定期演奏会をCD製作のために録音したことに関し、演奏の録音については尾高音楽監督と事前に相談する取り決めとなっており、札響団員も尾高音楽監督が承諾した録音と認識していたとの事です。「音楽監督辞任も含めた」強い抗議が尾高音楽監督からあり、演奏会後には一部の団員さんからの抗議もあったとの事。このことは、不注意による連絡ミス、確認ミスから起こったことと思われ、尾高さんには財団側が謝罪を行い団員さんには書面で謝罪したようです。今後、このような事が起こらないよう、財団側にも細心の注意を払っていただきたいものと考えます。幸い、尾高さんは謝罪を了承し音楽監督の継続も内諾していただいた様なので、我々ファンとしてもホッと胸をなでおろすと共に、ますます声を大にして応援を続けたいと気持ちを新たにしたところです。尾高音楽監督、高関正指揮者、エリシュカ首席客演指揮者の３人体制になった最近の札響の活躍やその演奏の充実ぶりには目を見張るものがあり、まさに札響は北海道の宝と言えるでしょう。札響の更なる飛躍を期待します。

（事務局次長　松尾英樹）

Player's talk 1

ヴィオラ
小峰（こみね）　航一（こういち）

———ご出身は

埼玉県鶴ヶ島市です。

———音楽との出会いは

幼稚園の園長先生が趣味でヴァイオリンを弾かれていて、月に一度、園児たちにヴァイオリンを聴かせてくれました。その園長先生のことが大好きで、先生に習いたくて親にお願いしてもらいました。教えていただけることになり喜んでいたところ、現れたのは、初めてみる白髪のすごく怖い顔をした先生。子供心に「まずいな。」と思いました。6歳の頃なのに今でもはっきり覚えています。結局その方、園長先生の友人の宮澤健一先生にヴァイオリンを習うことになりました。こわい先生でしたが大好きな先生で、進学してからも留学してからも、事あるごとに相談をしていました。幼稚園でヴァイオリンに出会いましたので、いまも毎年必ずその幼稚園に行き、音楽会を開いています。

———ヴィオラを志したのは

小学校5年生のときにヴィオラに転向しました。高い音より低い音のほうが好きだったのと、子供の頃からアンサンブルが好きだったので、自分でヴィオラに変わりたいと言いました。子供の頃から渋いもの、陰のあるものが好きだったのですね。

———高校、大学ではどんな生活でしたか

中学校までは普通に進み、高校は芸大の附属高校に入学しました。高校での一番の思い出は、朝から夜遅くまで一つの曲をとことん仲間と練習したことですね。高校生なので夜遅くまで学校で練習してはいけないのですが、こっそり続けているのを守衛さんに見つかってブレーカーを落とされたことが何度かありました。でも、高校生なのでめげずに、「じゃ、暗譜で練習しよう」と。本当に楽しかったです。

———留学のお話を

芸大の3年次にパリ音楽院に留学し、その後復学して芸大を卒業しました。留学については、高1のときの講習会でブルーノ・パスキエ先生に出会ったときからずっと考えていたのですが、大学2年の冬に受験することが出来たのです。パリで3年間パスキエ先生について勉強しました。パリは街全体が美術館で、散歩するだけで楽しいところでした。僕は絵を見るのもすごく好きなので、オルセー美術館には何度も通いました。また、オペラ座（ガルニエ宮）にある天井画、シャガールの描いた「ダフニスとクロエ」も感動もので、オペラ座に聴きにいくときは最上階の席をわざわざ買って天井画を楽しみました。

———札響に入団するまで

小樽で開催された今井信子先生の講習会などの機会に、何度も北海道には来ていました。たまたま札響のエキストラの仕事があり、一緒に弾いてみていいオケだなあと感じました。ですから、オーディションの話を聞いた時、「こんなオケに入れればいいな」と思ったのです。北海道はヨーロッパ的な気候でもあるし、楽器も良く鳴ります。弾いてみるとはっきりと違いが分かるのです。入団して感じるのは、仲が良くて、明るい感じのオーケストラということですね。自分は楽器を弾くうえで一番大切なものは音色だと思っていました。札響はその音色をすごく大事にしているオーケストラだと感じています。先輩方が創ってきた札響の伝統を頑張って引き継いでいきたいなと思います。

———ヴィオラの魅力は

ベルリオーズの名著「大管弦楽概論」の中で「ヴィオラは、オーケストラの中でもっとも素晴らしい特質を持っている楽器だ」といっています。主旋律ではないにしても、裏のメロディや合いの手で人の心をつかめる独特の音色を持っている、いわば秘密兵器的な役割、役者で言えば性格俳優的な役割が魅力です。

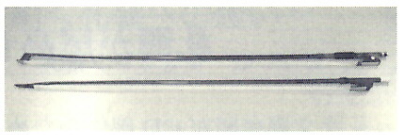
———今後、やってみたいこと

僕は、無類の室内楽好きなので、クァルテットをやりたいです。丁度仲間もできましたので、いろいろなコンサートが出来たらいいなと思っています。クァルテットではオケの中で弾いているのとは違い、一人ひとりの音が皆さんに伝わりますから、「こんな音なんだ」とわかって貰えれば嬉しいですね。

———ご趣味をお聞かせください

最近、運転免許を取り、車を運転する爽快感を味わっています。趣味としては、絵を見るのが本当に好きです。札幌に来て、近代美術館に初めて行ったのが『レオナール・フジタ展』。以前から彼の絵は大好きだったのですが、「フジタ展」としてまとまって見たのはこのときが初めてで、北海道に縁を感じました。

僕は「クラシック」マニアで、CDで古い録音のものを聴くのが好きで、車の中でもいつもバロックをかけています。最近、バロック・ボウを買いました。



小峰さんのバロック・ボウ（下）
上は現代楽器の弓

———ファンに一言お願いします

いつも本当に感謝しています。演奏会は、演奏家だけが創っているわけでなく素晴らしいお客さんがいて一緒に音楽を感じられたとき、素晴らしい音楽会が生まれる。これからも一緒に音楽を楽しめたらいいなと思っています。

（松尾英樹）

Player's talk 2

ヴァイオリン

中村菜見子（なかむらなみこ）

撮影：佐藤郁子（札響 Vn）

―――ご出身は

千葉県柏市です。

―――ヴァイオリンを習うきっかけは

父と母がアマチュアオケのメンバーで、その練習をよく見学していました。5歳の頃にヴァイオリンを指差して「あれをやりたい」と言ったのを憶えています。どうしてかは分からないのですが興味を持ったのですね。そのオケの人に紹介していただいた先生についてヴァイオリンを始めました。とにかく練習が嫌いでしたが、中学生になってからは積極的に練習するようになりました。

―――高校、大学時代は

小学、中学と普通の学校へ通っていました。高校は音楽科のある学校へ進学したのですが、そこでは、ほとんどの生徒がピアノを専攻していました。そのせいかピアノがすごく好きになりCDを買ったりして、ピアノ曲をたくさん聴きました。実はピアノは2歳から習っていたのに、練習が嫌で…。結局、小学生の時にやめてしまったのです。その後も頑張った時期はありましたが、さっぱり上手くはなりませんでした。高校の同学年でヴァイオリン専攻は二人だけでしたので、授業では学年を超えて弦の専攻を集め弦楽合奏もしました。学校は古楽器が盛んで、バロック・ダンスなんていう授業もありました。今でこそバロックは面白いと思いますが、あの頃はあまり興味を持てませんでしたね。

進学した東京芸大は、音楽のほかに美術学部がありましたので、絵が好きな私は美校をうろつきまわったり、街をぶらぶら歩いて写真を撮ったりしていました。ヴァイオリンが上手くならずに苦しい思いもしました。大学で教わった瀬戸瑤子先生と松原勝也先生に出会えたことは私にとって大きな財産です。お二人とも心から尊敬できる師ですね。今でも時々レッスンをしていただきます。

―――留学のお話を

子供の頃から外国に行きたいという強い希望を持っていて、大学卒業後パリに留学しました。弦楽器はドイツに行く人が多く、大学でもドイツ語を専攻していたのですが、たまたま参加した講習会の先生に惹かれ、フランスに留学することにしました。パリは音楽に限らず、いろいろな芸術が盛んなところで、発想においてかなわないなと思わせるところがありました。クラシックコンサートひとつにしても演出方法が素晴らしく、ライトアップに凝ってみたり、決まりきった枠にはまったものではなく工夫されたものでした。

―――札響に入団するまで

教えることより弾くことのほうが好きだと分かってから、オーディションはいくつか受けていました。札響からエキストラの声がかかったときに丁度予定が合わずに来るチャンスを逃したことがありました。北海道はオーディションのときが初めての訪問でした。すごくよい雰囲気のなかで、リラックスしてオーディションを受けることが出来ました。もちろん、練習場のある芸術の森も素晴らしい環境だと思いました。入団して感じることは、「本当に札響でよかった」ということです。気候がヨーロッパと似ていて「本当に日本なの？」と思う瞬間もありますし、雪も綺麗で大好きなので。

それまで、オーケストラ経験があまりなかったので、曲を練習するだけで大変です。でも皆さんとてもおおらかで、裏方さんなども練習をしやすい環境に配慮していただき、とても素晴らしいと思います。団員の方も皆明るい方ばかりで、とても良くしてくれます。でも、もっと勉強しないとだめだということを痛感しています。

―――お休みの日は

映画をよく見に行きます。ジャンルは問いません。最近観た『未来を写した子供たち』はドキュメンタリー映画ですが、監督が“メッセージを発そう！”としていないところがいいです。全然押し付けがましくないので結果的にとても感動し、行動を起こそう、という気になれます。そして、何より映像が色彩豊かできれいでした。

写真も好きでカメラをいつも手元においています。とても本格的とはいえないのですが、モノクロのトーンが好きで、最初はコンパクトカメラから始め、安い一眼レフを買って留学中のパリでもよく撮りました。フィルムの世界はいいですね。自分で現像もしますが、最近はデジタルばかりで近所のカメラ屋さんが2軒なくなっちゃいました。最初は物や風景が多かったのですが、最近は人物を撮るようになりました。いかにも撮っていますっていうのが苦手なので、いつもこっそり撮っています。

中村さん撮影のヴァイオリン

―――ファンに一言お願いします

ヨーロッパの都市では、その土地のオーケストラに足を運んで、みんなで応援するというのが良くありますが、札幌も地域に密着した存在としての札響があり、とても理想的なことだと思っています。この良い関係をずっと続けていければと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。

（松尾英樹）

文部科学省関連事業仕分けに関する パブリックコメントの結果

昨年12月15日に締め切られた事業仕分けにつきまして、会員各位のご協力もあり文部科学省関連では約15万３千件を超える応募があったと文部科学省が公表しています。

文化関係①「芸術創造・地域文化振興事業等」「子どものための優れた舞台芸術体験事業」では約11万件の応募があり、116億3700万円の要求に対し、104億5800万円の予算が計上され、11億7900万円約10％が削減されましたが、実際には「学校への芸術家派遣」が統合されたため、14億8100万円12.4％の削減となります。さらに３年で１／２まで縮減するとともに、地域の芸術拠点形成事業は２年で廃止する、とされました。

文化関係②「芸術家の国際交流」では約900件の応募、要求額32億1100万円に対し予算額26億9500万円となり、５億1600万円約16％の削減、「伝統文化こども教室事業」では約1400件の応募、要求額18億2000万円に対し予算額12億1600万円となり、６億400万円約33％強の削減、さらに３年後には廃止、「学校への芸術家派遣」では約800件の応募がありましたが、「子どものための優れた舞台芸術体験事業」に統合のため要求額３億200万円は全額削られました。

この結果、関連する事業の総額では、169億7000万円の要求に対し、143億6900万円の予算が計上され、26億100万円約15.3％が削減されたことになり、オーケストラの運営にも少なからず影響を受けることになると思います。

札響くらぶ会員　特典

●平成22年度札幌交響楽団定期演奏会　10％割引（カッコ内は定価）

Ｓ席　4,500円（5,000円）
Ａ席　4,050円（4,500円）
Ｂ席　3,600円（4,000円）
Ｃ席　2,700円（3,000円）
※学生席の割引はありません。

●平成22年度札響名曲シリーズ
Ｓ席のみ10％割引（カッコ内は定価）

Ｓ席　3,600円（4,000円）
※Ａ席、学生席の割引はありません。

≪上記チケットを割引価格で購入できる店舗≫

・キタラチケットセンター
・大丸プレイガイド
・道新プレイガイド
・４プラプレイガイド
※各演奏会一般発売日より購入可能なので、会員証を提示して購入してください。

●テラスレストラン・キタラ

飲食10％割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。

●キクヤ楽器店（狸小路３丁目）

全商品10％割引。ただし、店内に限ります。キタラ等の出店では適用されません。

●ダイニング『イル・ネージュ』
（北区北12西１
北12条パークマンション１Ｆ）

札響くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは011－717－2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。札響演奏会の感想など特に内容は問いませんが、この会報に関するご意見・ご要望をいただけると嬉しく思います。また、次年度の『札響くらぶコンサート』についてのご意見もお寄せ下さい。

投稿の期限はありませんが、４月30日までに投稿してくださった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

① ６月の札響定期演奏会のＳ席チケット（３名様）（座席の指定はできません）
② 小峰航一さんのサイン入り色紙（２名様）
③ 中村菜見子さんのサイン入り色紙（２名様）

投稿は、ハガキ、封書またはＥ－メールでお送り下さい。なお、必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。（あて先は会報の題字の下にあります）

編集後記

会報が50号を迎えました。ひとえに皆様方のご声援に後押しされてのたまものと感謝しております。前佐藤編集長から引き継いで私の担当となり10号が経過したわけですが、バックナンバーを見るといつも冷や汗の出る思いです。

札響音楽監督の尾高さんの契約延長も決まり、今後も引き続き札響の面倒を見ていただける事となり、私たち『札響くらぶ』も継続は力との言葉を合言葉とし、これからも札響を力強く応援して行きたいと思います。この会報もますますの充実を目指しますので、お気付きの点など指摘していただければと思います。

（松尾英樹）